

第7章 教 育

第1節 教育委員会

1 教育委員会

委員会は、定例会を12回、臨時会を10回招集し、議案件数は34件であった。

2 教育基本構想

「沼津市教育基本構想」を、沼津の教育の方向性を明確にし、教育施策を総合的に進めていくための指針として平成21年1月に策定し、その後の社会的環境の変化に伴い平成27年3月に改訂した。この基本構想では、「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」を目的と定めている。

基本構想に示した理念の具現化を図るため、平成28年4月に沼津市教育基本構想実施計画（平成28年度～令和2年度）を作成し、計画に基づき具体的な施策を実施している。

3 総合教育会議・教育大綱

総合教育会議は、平成27年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により設置されたもので、市長と教育委員会によって構成されており、教育大綱の策定や「教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策」等について協議・調整を行う。

本年度は総合教育会議を2回開催し、本市が目指す教育や、沼津市教育大綱の策定について協議した。

4 学校規模・学校配置適正化推進事業

全国的に少子高齢化が進み、本市においても地域によって児童生徒数の減少や増加により、学校規模の差が大きくなっている。よりよい教育環境の整備や教育の質の更なる充実を図るため、「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」を平成29年度に策定し、取組を進めている。

本年度は、戸田地区において、地区推進委員会を4回開催し、校名・校歌・校章・制服等の検討事項について協議するとともに、保護者に対してアンケート調査を実施した。長井崎中学校区においては、統合（一貫校化）の方針を決定するとともに、地区推進委員会を4回開催し、「長井崎中学校区小中一貫学校基本計画」を策定、校名・校歌・校章・制服・通学等の検討事項について協議を行った。また、保護者に対して説明会やアンケート調査を実施するとともに地

区説明会を実施した。第二中学校区においては、地区推進委員会を設置し、委員会を3回開催して、学校規模・学校配置適正化の方向性について協議するとともに、保護者に対して説明会とアンケート調査を実施した。その結果、第二中学校区内での統合や一貫校化などを進めても、大きな効果が期待できないため、第一中学校区との統合について検討する必要があるとし、第一中学校区において、保護者に対して説明会を開催した。

第2節 学校の運営・管理

5月1日現在における市立の学校・幼稚園数、学級数、教職員数（兼務者除く）、児童・生徒・園児数は次のとおりであった。

区 分	学校・幼稚園数	学 級 数	教 職 員 数	児童・生徒・園児数
小 学 校	24 校	331 学級	669 人	8,366 人
中 学 校	18	173	449	4,646
高 等 学 校	1	15	62	604
幼 稚 園	2 園	6	12	42

1 小 学 校

門池小学校南西校舎整備工事、戸田地区小中一貫校整備工事、小学校普通教室等空調設備整備工事、第三小学校プール改修工事、門池小学校トイレ洋式化整備工事のほか各小学校の営繕工事等を実施した。また、要保護及び準要保護家庭の児童の保護者に対して、就学援助費を支給するとともに、新入学学用品費等の入学前支給を開始し、特別支援学級児童の保護者に対して、特別支援教育就学奨励費を支給した。

(1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	児 童 数	決 算 額	1学級当たりの 金 額	1人当たりの金額
元	331 学級	8,366 人	1,389,944 千円	4,199,226 円	166,142 円
30	340	8,613	1,430,999	4,208,820	166,145

(2) 経常費の児童1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
元	35,606	100,110	20,338	10,088	166,142
30	36,615	93,231	26,841	9,458	166,145

(3) 要保護及び準要保護児童の就学援助費

区 分	児 童 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	1,089 ^人	12,929,173 ^円
修 学 旅 行 費	164	4,349,527
通 学 費		
新入学児童学用品費等	192	8,835,474
学 校 給 食 費	898	38,825,468
医 療 費		
元 年 度	2,343	64,939,642
30 年 度	2,155	60,962,190

※新入学児童学用品費等の入学前支給を開始したため、新入学児童学用品費等は令和2年度入学者分を含む

(4) 特別支援学級児童の特別支援教育就学奨励費

区 分	児 童 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	90 ^人	349,983 ^円
修 学 旅 行 費	10	106,621
通 学 費	20	590,640
新入学児童学用品費等	6	129,770
学 校 給 食 費	72	1,533,877
元 年 度	198	2,710,891
30 年 度	189	2,812,204

2 中 学 校

戸田地区小中一貫校整備工事、静浦中学校普通教室等空調設備整備工事、原中学校北校舎屋上防水改修工事、金岡中学校屋内運動場解体工事、市立高校中等部北側ブロック塀改修工事のほか、各中学校の営繕工事等を実施するとともに、中学校15校の普通教室等空調設備工事に着手した。また、要保護及び準要保護家庭の生徒の保護者に対して、就学援助費を支給するとともに、新入学学用品費等の入学前支給を開始し、特別支援学級生徒の保護者に対しては、特別支援教育就学奨励費を支給した。

(1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	生 徒 数	決 算 額	1学級当たりの 金 額	1人当たりの金額
元	173 ^{学級}	4,646 ^人	846,072 ^{千円}	4,890,591 ^円	182,108 ^円
30	172	4,736	867,087	5,041,203	183,084

(2) 経常費の生徒1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
元	30,355	105,857	26,920	18,976	182,108
30	33,690	101,682	32,120	15,592	183,084

(3) 要保護及び準要保護生徒の就学援助費

区 分	生 徒 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	817 ^人	14,414,751 ^円
修 学 旅 行 費	183	10,209,393
通 学 費		
新入学生徒学用品費等	360	20,664,000
学 校 給 食 費	571	29,391,840
医 療 費		
元 年 度	1,931	74,679,984
30 年 度	1,615	59,779,252

※新入学生徒学用品費等の入学前支給を開始したため、新入学生徒学用品費等は令和2年度入学者分を含む

(4) 特別支援学級生徒の特別支援教育就学奨励費

区 分	生 徒 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	56 人	283,322 円
修 学 旅 行 費	10	271,661
通 学 費	5	125,600
新入学生徒学用品費等	13	331,979
学 校 給 食 費	39	1,041,101
元 年 度	123	2,053,663
30 年 度	129	2,242,809

3 高 等 学 校

中高一貫教育の利点を生かし、6年間を通じた教育の充実に努めた。また、北側ブロック塀改修工事、弓道場改修工事等を実施した。

(1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	生 徒 数	決 算 額	1学級当たりの 金 額	1人当たりの金額
元	15 ^{学級}	604 ^人	580,772 ^{千円}	38,718,133 ^円	961,543 ^円
30	15	605	540,774	36,051,600	893,841

(2) 経常費の生徒1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
元	721,150	178,235	60,717	1,441	961,543
30	718,333	139,141	34,021	2,346	893,841

4 幼稚園

心豊かで思いやりのある園児の育成に努めた。

(1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	園 児 数	決 算 額	1学級当たりの 金 額	1人当たりの金額
元	6 ^{学級}	42 ^人	85,798 ^{千円}	14,299,692 ^円	2,042,813 ^円
30	6	44	83,436	13,905,996	1,896,272

(2) 経常費の園児1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
元	1,492,250	527,680	17,328	5,555	2,042,813
30	1,338,722	551,228	4,543	1,779	1,896,272

第3節 学 校 教 育

1 「チーム学校」実現事業

各学校が、地域性や学校の独自性を生かした特色ある教育活動を通して中期計画を達成するために、各学校が必要とする支援員を配置した。また、地域交流の推進と外部人材の活用を図る事業を、各学校の要望に応じて支援することを目的に、本年度は、小学校23校、中学校17校、小中一貫学校1校の各学校で行われた127の事業に交付金を交付した。

(1) 支援員配置事業

- 児童生徒支援員
- 図書館支援員
- 外国人児童生徒支援員
- 複式学級支援員
- 部活動指導員（令和元年度から新規配置）

- 放課後学習支援員
- 日本語学習支援員
- (2) 地域交流推進・外部人材活用事業
 - 地域人材を活用した体験学習事業
 - 地域人材を活用した講演会事業
 - 地域の高校生を活用した交流事業
 - 校外学習支援事業
 - 高い能力や技能を有する人材を活用した事業

2 言語教育による表現力・読解力育成事業

国の承認を受けた特別な教育課程「言語科」の授業を中心に、言葉を用いて人と積極的に関わる態度や論理的な思考力、表現力が高まる言語教育の推進及び読書活動の充実による読書力、読解力の向上を図ることを目標としている。

「言語科」は「読解の時間」と「英語の時間」からなり、「読解の時間」においては、様々なテキスト等から、子どもたちが自ら課題を発見し、人と関わり合いながら解決に向かっていくプロセスを大切にして、思考力、判断力、表現力の育成に努めた。「英語の時間」においては、小・中学校（中等部を除く）にALT（外国語指導助手）を配置し、英語や異文化に親しみながら、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めた。

平成29年度から新しくなった「言語科」副読本の活用により、思いや考えを伝え合う授業の充実を図り、児童生徒の読解力の向上に努めた。

3 沼津まるごとイングリッシュ事業

沼津市教育大綱に掲げる「コミュニケーション能力の向上を図り、国際感覚を豊かにする教育」を具現化するため、子どもの英語によるコミュニケーションへの自信や興味、関心、意欲を高めていくことを目的としている。

「言語科」で9年間英語を学び伸ばしてきた自らの英語力を確認する機会とするとともに、学習意欲の向上を図るため、中学校全学年を対象に中学校卒業程度の英語力を必要とする英検3級の本会場、準会場及びCBT検定料の一部を補助し、583人の生徒が利用した。

4 中高一貫教育

沼津市立沼津高等学校・中等部は、中高一貫教育校として6年間の計画的、継続的な教育を

通し、生徒個々の自己実現を図ることを目標に、生徒の学力向上や個性を伸ばす教育を活発に展開した。

5 情報教育

小・中学校21校の情報機器の更新等を行った。そのうち、中学校16校へ大型ディスプレイを導入した。

また、沼津市立小中高等学校ネットワーク協議会によるICT機器の活用と情報モラル向上のための研究に努めた。

6 教職員の研修

指導主事の計画訪問により各校の校内研修の推進を図った。

また、教職員研修センターが進める研修会及び個別指導訪問により、小・中学校に勤務する教職員の資質向上を図った。

7 教科指導研究

小・中学校の教員から、教科等指導リーダー29人、研究員72人を選任し、教科等ごとのチームで研究を推進した。各研究チームは授業研究の成果による公開授業及び研究協議等を行い、年度末に研究のまとめを学校間ネットワーク上に公開し全職員が閲覧できるようにした。

本市では、各研究チームが活発な活動を継続的に行っており、本市の教科指導力向上の要となっている。本年度は、次年度に全面実施を迎える（中学校は令和3年度から）新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえた研修成果を中心に報告された。

8 教職員人事

明日の社会を担う「夢ある人」づくりを目指して、学校や地域の実態及び教育課題に基づいた学校づくりや、信頼に応える教育の実現を目指す組織づくりに向け、年度末人事異動の内申を行った。

総 数 234人（小学校143人、中学校91人）

9 保健体育

児童生徒の体力づくりを進めるため、中学校体育大会（7月～8月）、新体カテスト（4月～10月）など各種の体育行事を実施した。

健康管理については、学校医、学校歯科医、学校薬剤師を委嘱し、児童生徒の疾病の予防指導、治療の奨励を行うとともに、結核検診、尿検査、心臓疾患の検査及び生活習慣病予防検診を実施した。

10 性 教 育

児童生徒をとりまく環境の変化に対応するため、教育委員会が作成した性教育に関する手引書「自らの生き方を考える」をもとに、各学校で性教育を行った。

11 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置

児童生徒が心の悩みや不安、ストレスなどを和らげ、心にゆとりをもって安心して学校生活を送れるようにするために、全小・中学校にスクールカウンセラーを配置した。

また、学校や家庭環境等に問題を抱える児童生徒及び保護者を支援するため、スクールソーシャルワーカー2人を配置した。

12 学 校 給 食

学校給食を学校教育の一環としてとらえ、児童生徒の健康増進と豊かな人間性形成を目指して、家庭との連携をとりながら、給食内容の充実、多様化を図り、望ましい食習慣の育成に努めるとともに、家庭における正しい食事の在り方の理解を深めるため、「給食だより」を作成し家庭に配布した。

給食指導、栄養管理、衛生管理については、研修会などを実施し、栄養教諭、栄養士、調理師等の資質の向上と業務の円滑な推進に努めた。また、食育の視点から、学校給食における地場産物の活用を進めるとともに、小・中学校の児童生徒に茶葉を配布し、静岡茶の愛飲推進を図った。

13 特別支援教育

心身に障害のある幼児児童生徒に対し、就学支援委員会の適正な就学支援を実施し、知的障害学級、自閉症・情緒障害学級、通級指導教室において、障害の種類、程度により個に応じたきめ細かな指導に努めた。

また、臨床心理士等を含む専門家チームが小・中学校を巡回し、教師や保護者の相談に応じるなどして、支援の充実を図った。

14 幼 児 教 育

市内の幼稚園・保育園の連携を高めるため、「沼津市幼児教育研究協議会」の活動として、研修会を実施した。

また、各種の交流活動を通して、幼稚園・保育園と小学校の相互の理解を深めた。

幼児教育・保育の無償化の開始に伴い、10月1日から幼稚園、保育園、認定こども園を利用する3歳から5歳児までのすべての子どもの保育料が無償化され、幼稚園就園奨励費を廃止した。

本市独自の軽減施策として、一定の所得未満の世帯及び第3子以降の世帯の子どもの副食費について、国の基準を上回る副食費補助等を実施した。

このほか、私立幼稚園の教職員の資質向上を図るため、14園に補助し、幼児教育の振興支援を行った。

15 児童生徒の発表会

児童生徒研究作品展（9月）を行い、児童生徒の創意工夫、創造力の育成を図ったほか、日頃の学習成果を発表する場として、中学校英語弁論大会（9月）、小・中学校美術展（令和2年1月）を開催した。

16 育英奨学金

沼津市育英条例に基づき、奨学生選考委員会を開催して、新たに10人を選考した。その結果、1人月額1万円の奨学金を38人の大学生に交付して勉学の奨励に努めた。

17 児童生徒の安全指導

小・中学校では、学級活動などの時間を利用した通学路の確認や自転車の乗り方などの交通マナー教育を通し、安全指導の徹底を図った。

また、地域や関係機関との連携を図り、児童生徒の安全確保に努めた。

沼津市通学路安全推進連絡協議会において、安全対策を専門とする有識者から助言を得ながら、関係機関と連携して通学路の安全対策を講じた。

18 隣接校選択制度

小・中学校入学時及び転入・転居の際に、居住地のある通学区域の学校以外に、隣接する学校も選択できる隣接校選択制度は、小学校で新年度入学児童1,218人のうち85人、中学校で入

学生徒1,461人のうち97人が利用した。

19 小中一貫教育

静浦小中一貫学校では大きな志やビジョンを持つ「夢ある人」を育てるために、子どもの育ちの視点から9年間をとらえ、連続性を生かした教育により「生きる力」を育む小中一貫教育の推進に取り組んでいる。

さらに、本年度からの2年間、全ての市立小中学校（中等部を除く）を研究指定校に指定し、小中合同の会議、研修、中学校区単位での地域連携、小中乗り入れ授業等を行った。

20 学力保証プログラム事業

「学習指導改善調査実施事業」を通して、子どもたちの学力を保証していくことを目的としている。

「学習指導改善調査実施事業」では、小学校5年生の全員を対象とした標準学力調査（国語、算数の2教科）を実施し、その結果に基づき授業改善に努めた。

第4節 社会教育

1 社会教育委員会

教育委員会の委嘱により、社会教育に関する調査・研究・検討や諮問に対する答申、意見具申などを行う、10人の委員からなる諮問機関であり、本年度は、8月に教育委員会から諮問された「学校を支える地域の人材発掘及び育成について」への答申に向けて調査や検討を重ねるとともに、各種研修会にも参加した。

2 生涯学習

市民の学習に対する意欲を支え、学習の場を提供するとともに、生涯学習を基幹とした社会教育活動を推進した。

(1) 生涯学習の推進

「生涯学習情報コーナー」（市立図書館内に設置）において、県内の市町情報のほか、生涯学習についての各種情報を提供した。また、生涯学習を推進するためのイベントとして「さ

んさん学習フェスティバル」を開催した。

ア 学習情報の提供

さまざまな学習情報を広く市民に提供するため、生涯学習情報紙「さんさんだより」を偶数月500部発行し、市内各連合自治会、地区センター等に配布した。

イ 生涯学習推進イベントの開催

市民の生涯学習活動の成果を発表する場を提供するとともに、生涯学習の啓発と普及を図るため、11月16日から17日まで、市民文化センターを会場に舞台演技、展示、手作り遊び、プレゼンテーションの4部門を設け、「第29回さんさん学習フェスティバル」を開催した。

参加団体 60団体・個人 来場者数 4,185人

(2) 地域における生涯学習の推進

地域における学習活動を推進するため、連合自治会単位に設置している「生涯学習地域推進員」を通じ、地域との連携を図るとともに、相互の情報交換や講座・講演会の開催等に協力を得た。

ア 地域学習講師の派遣

各地域の団体やグループの学習活動を支援するため、その学習に合った講師や指導者を派遣し、地域学習を支援した（派遣回数17回）。

イ 学校開放

小・中学校の特別教室等を地域における生涯学習の場として活用するため、小学校9校と中学校2校で学校開放を実施した。

利用登録団体 67団体 利用者数 延べ26,066人

ウ 出前講座

市民の学習ニーズに応えるため、市職員を講師として派遣する出前講座を開催し、学習機会の拡大を図った。

講座数 69講座 開催数 123回
受講者数 4,982人

エ まちの識者

特技や知識を持っている方々を「まちの識者（地域学習指導者）」として人材登録し、市民からの学習指導者紹介の要請に応じた。

登録者 延べ122人 紹介件数 100件
 受講者数 2,593人

オ イングリッシュデビュー事業

英語の習得には乳幼児期から英語に慣れ親しむことが重要であることから、英語に触れるきっかけづくりとして、0～3歳児とその保護者を対象とした英語教室を開催した。

開催数 18回 受講者数 延べ962人（469組）

また、4歳児から小学校低学年児童とその保護者を対象に、親子で英語を使ってコミュニケーションを図るプログラムを実施した。

3 成人教育

(1) 市民大学

「豊かな未来をひらく」をメインテーマとして、価値観が多様化する現代社会の中で、市民の生涯学習活動を助長することを目的として、講師を招き、広い視野と新たな視点を提供した。

	日程	テ ー マ ・ 講 師	出席者数 (人)
1	6.29	継続は力なり ～沼津とフェンシングの可能性～ 国際フェンシング連盟副会長・日本フェンシング協会会長 太田 雄貴	326
2	7.13	テレビで女性が働くということ ニュースキャスター 安藤 優子	537
3	7.20	うなぎは食べられなくなるのか？ ～絶滅危惧種ニホンウナギと末長く付き合うために、知っておきたいこと～ 中央大学法学部准教授 海部 健三	265
4	7.26	北条早雲を描くということ 漫画家 ゆうきまさみ	288
5	8.24	これから世界はどうなるのか 凱風館館長・神戸女学院大学名誉教授 内田 樹	265
6	9.7	地域を知り、防災を考える ～最近の豪雨災害事例から学ぶこと～ 静岡大学防災総合センター教授 牛山 素行	216
7	9.14	患者さんの体に優しいロボット手術の現状と未来 藤田医科大学総合消化器外科教授 宇山 一郎	226
8	9.20	ジオパークでつながる人と地域 伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局専任研究員 鈴木 雄介	166
9	10.6	『流転の海』を書き終えて 小説家 宮本 輝	454
			延べ 2,743

(2) 高齢者教育

生涯学習の一環として、高齢者が心豊かに明るく健康な生活を送るとともに、仲間と語り合い、生きがいを求める場として、65歳以上の市民を対象とした高齢者学級を開設した。

開設学級 万年青大学5学級

寿大学16学級（愛鷹、原、浮島、日枝、大岡、内浦、橘西浦、香南、我入道、第三中、大平、金岡、片浜東部、片浜西部、今沢、門池）

期 間 4月～令和2年2月 学級生数 1,620人 学習回数 各大学とも年間11回
また、学習のほかクラブ活動として、体力づくり、ダンス、詩吟、コーラス、俳句ほかを大学ごとに自主的に行った。

(3) 家庭教育

ア 家庭教育講座

幼児期から思春期までの子どもの心身の発達や親の望ましいあり方等について学ぶ講座を開催した。

(ア) 自信がもてる子育て講座

開催数 春期、秋期各5回 受講者数 延べ643人

(イ) 家庭教育講演会

受講者数 82人

イ 家庭教育講座支援事業

すべての教育の原点である家庭教育力向上を目的として開催される、家庭教育に関する学習会へ講師を派遣した。

派遣回数 10回

4 青少年対策

(1) 青少年問題協議会

青少年対策にかかわりのある機関・団体及び行政の代表12人で構成されている青少年問題協議会を、年2回開催し、青少年の社会参画について意見交換を行った。

(2) 青少年を健やかに育てる会

青少年健全育成を主眼に、地域組織として18地区に設置されている「青少年を健やかに育てる会」は、育成部・補導部により積極的な地域ぐるみの活動を行った。

また、地域の団体・機関等が密接に連携・協調し、各地区において健全育成についての懇談会・講演会等を開催するとともに、文化祭・お祭り・スポーツ大会等への青少年の参加を

促すなど、あらゆる機会と場を活用しながら青少年の健全育成と非行・被害防止に努めた。

(3) 青少年健全育成啓発事業

市民が青少年問題に対する関心を深め、青少年の健全育成を推進するために、「青少年を健やかに育てる会」及びその他の関係機関と緊密な連携を保ちながら青少年健全育成啓発事業を行った。

7月には、全国一斉に内閣府が主唱する「青少年の非行・被害防止強調月間」と法務省の「社会を明るくする運動」を一体として、沼津駅前等主要箇所において街頭キャンペーンを実施した。

11月の「子供・若者育成支援強調月間」では、沼津駅周辺での街頭キャンペーンを実施し、さらに広報活動を通して青少年健全育成の啓発に努めた。

また、児童生徒が通学路や遊び場等で危険に遭遇した時、すぐに助けを求められる場所として「こどもかけこみ110番の家」（令和2年3月31日現在2,332か所）を設置した。

(4) 青少年育成推進員制度

各地区の「青少年を健やかに育てる会」から推薦された320人で構成され、「青少年を健やかに育てる会」の中核的な推進役として、地域の青少年団体の育成や地区行事等で活動した。

(5) 青年教育推進事業

青年が個人の教養や技術を身につけるとともに、地域での社会貢献の意識を高めることを目的として教養講座や交流活動を実施した。

(6) 二十歳の集い

地域分散方式（中学校区単位）により、市内17会場で地域における手作りの式典を開催した（出席者総数1,452人、出席率81.3%）。

また、成人の日を意義あるものにすべく、成人となった若者たちに有権者としての自覚と市政への関心を喚起するため、二十歳の集いの記念事業として第22回新成人議会を開催し、35人の新成人議員が出席した。

(7) わたしの主張大会

市内の中学生が家庭、学校、郷土（地域）、友人、将来のこと、あるいは、自分の体験や日頃考えていることを発表する場として第38回大会を開催し、市内19中学校から校内審査により選ばれた19人が発表した。

(8) 2019高校生しゃべり場 in ぬまづ

市内の各高校（沼津高専、沼津商業高校を含む）の代表者と、公募による市外の高校に通う市内在住の生徒に、日頃感じていることや意見を発表する場を提供することで、高校生の

社会参加のきっかけを作るとともに、生徒自身の社会に対する意識の高揚を図り青少年の健全育成を促すことを目的として、ディスカッション方式で開催した。第7回となる本年度は、13人の高校生により、「高校生が考えるSNSルールとは」をテーマに活発な意見交換が行われた。

(9) 青少年体験学習推進事業

幅広い分野での体験の機会を設け、参加者の自ら学び考える力や様々な物、事への興味・関心・意欲の向上を図ることを目的に、学校や家庭ではできない体験活動を実施した。

開催数 4回 参加者数 162人

(10) 青年団体の育成及び青少年育成団体との連携

青少年の健全育成を図るため、沼津市子ども会育成連絡協議会等と常に緊密な連携を保ちながら次の事業を実施した。

ア こいのぼりフェスティバルを狩野川緑地を会場として4月21日～5月5日に開催した（来場者数25,500人）。

イ 子どもの遊び王国in沼津を愛鷹広域公園多目的競技場を中心として10月6日に開催した（来場者数5,600人）。

ウ 子ども会インリーダー研修を市内の小学校高学年児童を対象に全5回実施した（参加者数21人）。

(11) 子どもの居場所づくり推進事業

行政、学校、放課後児童クラブ、児童福祉、社会教育の関係者や地域住民の代表などの委員で構成される「放課後子ども総合プラン運営委員会」を設置し、「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との関連や活動場所、人材確保など本市における「放課後子ども総合プラン」等について協議をし、「放課後子ども教室」を市内6か所の小学校にて実施した。

5 青少年教育センター

(1) 補 導

ア 中央補導

繁華街での補導を強化するため、各小・中・高等学校、地区補導委員代表者、PTA及び警察署と連携を保ちながら計画的な街頭補導を実施した。

イ 地区補導

市内全域の補導強化を図るため、18地区の「青少年を健やかに育てる会」から推薦された少年補導委員により、それぞれ地区の実情に合った補導を実施した。

ウ 特別補導

「沼津夏まつり」「高尾山祭典」での補導を実施した。

機関・団体別少年補導委員数

(単位 人)

機関・団体名	委員数	機関・団体名	委員数	機関・団体名	委員数
小 学 校 教 員	23	第五地区青少年を健やかに育てる会	20	静浦地区青少年を健やかに育てる会	6
中 学 校 教 員	18	片浜地区青少年を健やかに育てる会	11	内浦地区青少年を健やかに育てる会	6
高 等 学 校 教 員	24	今沢地区青少年を健やかに育てる会	14	西浦地区青少年を健やかに育てる会	3
大 型 店	2	金岡地区青少年を健やかに育てる会	17	原地区青少年を健やかに育てる会	17
第一地区青少年を健やかに育てる会	20	大岡地区青少年を健やかに育てる会	19	浮島地区青少年を健やかに育てる会	6
第二地区青少年を健やかに育てる会	20	門池地区青少年を健やかに育てる会	13	戸田地区青少年を健やかに育てる会	4
第三地区青少年を健やかに育てる会	19	愛鷹地区青少年を健やかに育てる会	6		
第四地区青少年を健やかに育てる会	20	大平地区青少年を健やかに育てる会	4	計	292

街頭補導実施状況

実施回数	補導委員従事延べ人数	声かけ、注意、指導した少年	事後指導（家庭・学校・他機関への連絡）
回 454	人 3,454	人 2,749	人

街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区補導）

（単位 人）

学 職 別		性別	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	小計	合計
行	飲 酒	男							0	0
		女							0	
	喫 煙	男							0	0
		女							0	
	薬 物 乱 用	男							0	0
		女							0	
	夜間はいかい	男		1	17				18	36
		女		1	16	1			18	
為	不 良 交 友	男							0	0
		女							0	
	怠 学 ・ 怠 業	男							0	0
		女							0	
種	ゲームセンター入場	男	13	51	157		3		224	408
		女	13	64	107				184	
	パチンコ店入場	男							0	0
		女							0	
	カラオケ店入場	男			1				1	4
		女			3				3	
	自転車の暴走行為	男			4				4	5
		女			1				1	
	自転車の二人乗り	男				1			1	2
		女				1			1	
別	自転車の無灯火	男	2		16				18	19
		女	1						1	
	危 険 な 遊 び	男	3	4	6		6		19	24
		女	4		1				5	
	そ の 他	男	1		8				9	14
		女	3	1	1				5	
小 計		男	19	56	209	1	9	0	294	512
		女	21	66	129	2	0	0	218	
合 計			40	122	338	3	9	0	512	
事後指導	家庭・学校・職場へ連絡	男							0	0
		女							0	
	他機関へ連絡	男							0	0
		女							0	
合 計			0	0	0	0	0	0	0	
愛の声かけ運動		男	469	296	458	29		3	1,255	2,237
		女	363	206	395	17	1		982	
合 計			832	502	853	46	1	3	2,237	

(2) 環境浄化活動

有害図書の販売場所、ゲームセンター、カラオケ店及び公園・空き地等、青少年のたまり場や遊び場を巡視し、高校生等による池上跨道橋橋脚の落書き消し等環境の浄化に努めた。

(3) 広報活動

非行・被害防止及び健全育成の啓発を図るため、街頭キャンペーン、青少年教育センターの機関紙「たより」の発行、関係機関や団体との情報交換を行った。

(4) 教育相談

面接相談と電話相談の各利点を生かして、児童生徒及び保護者の相談に応じた。教育相談の実績は、面接相談145件（延べ1,729回）、電話相談3,525件であった。

ア 相談指導学級

不登校の児童生徒の学校復帰や社会的自立を図るため、通級による指導を行った。

イ 面接相談

非行、不登校、発達・子育て、進路・適性、対人関係等の課題について、職員や臨床心理士、言語聴覚士により面接相談を通じて相談者自身による課題解決を支援した。また、本人や保護者との面接のほか、必要に応じて学校等への訪問を実施した。

相談内容・対象者別内訳

(単位 件)

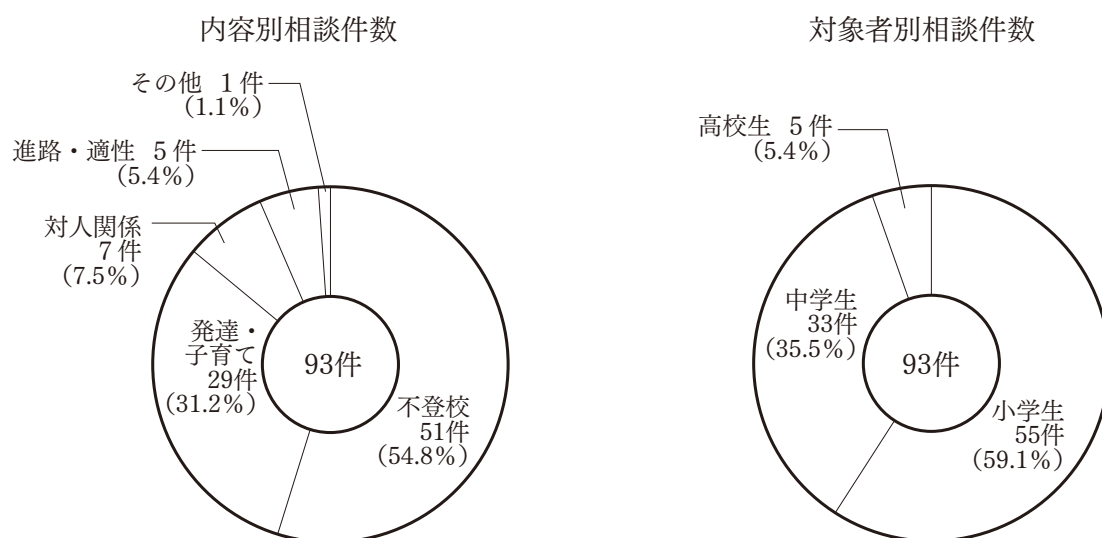
対象者	内容	非 行	不 登 校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その 他	計
幼 児								0
新 規								0
小 学 生			30	33	4	3	1	71
新 規			23	26	2	3	1	55
中 学 生			49	9	3	3		64
新 規			27	2	2	2		33
高 校 生			1	1	6	2		10
新 規			1	1	1	2		5
そ の 他								0
新 規								0
本 年 度		0	80	43	13	8	1	145
新 規		0	51	29	5	7	1	93

※対象者のその他……大学（短大）生・専門学校生・有職少年・無職少年など

※上段は相談件数

※下段は新規相談で上段の内数

[新規相談受理状況]



ウ 相談指導学級における教育相談教員研修

学校における複雑多様化した児童生徒の行動を理解し、課題の改善を図る手法として、「教育相談的かわり」のできる教員を育成することを目的に、教職員研修センターの主催する「若手教員研修」のうち相談指導学級における体験研修を行った。(受講者18人、年間18回)

エ 電話相談

「やまびこ電話」の愛称で呼ばれる電話相談では、電話を通して訴えられる青少年に関する多種多様な課題や悩みについて、23人（令和2年3月31日現在）の相談員が共に悩み考えながら解決へ向け支援した。

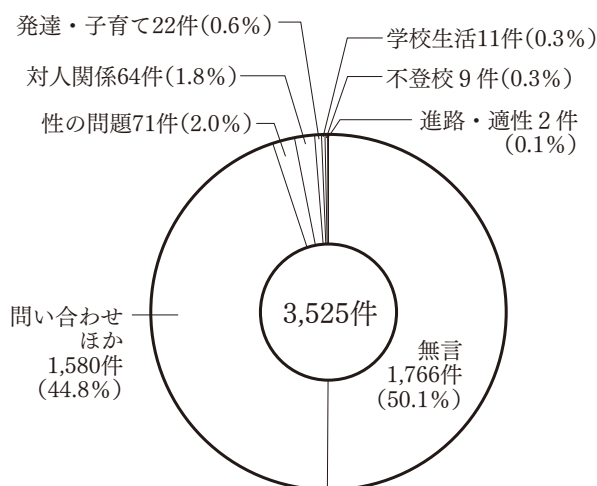
相談内容・対象者別内訳

(単位 件)

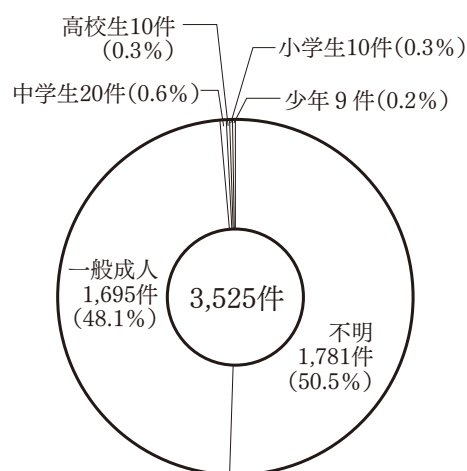
内容 \ 対象者	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	不明	計
非行								0
不登校		4	3	2				9
発達・子育て		2	6		4	10		22
性の問題		1	5	5	3	50	7	71
進路・適性		1		1				2
対人関係		1	1	2		58	2	64
学校生活		1	5		1		4	11
問い合わせほか					1	1,577	2	1,580
無言	—	—	—	—	—	—	1,766	1,766
計	0	10	20	10	9	1,695	1,781	3,525

※少年は20歳未満の大学（短大）生・専門学校生・有職少年・無職少年

内容別相談件数



対象者別相談件数



6 芸術・文化振興

市民による自主的な芸術・文化活動を支援し、その成果を発表する場として、市民の参画により「第46回沼津市芸術祭」を開催した。

部門名	開催日・会場	内 容
合唱祭	10.6 市民文化センター	参加団体 35団体（720人） 少年少女、高校、職場、婦人、一般による合唱の発表
芸術祭茶会	10.6 御用邸記念公園東附属邸	参加団体 3流派（54人） 茶道東海流、表千家、大日本茶道学会による茶席
書道展	10.9～10.14 プラサヴェルデ	出品総数 104点 書道の作品展示
写真展	10.10～10.15 市民文化センター	出品総数 164点 写真の作品展示
ぬまづ文芸	10.10 入賞者発表	出品総数 483点 随筆、詩、短歌、俳句、川柳の作品募集と作品集「ぬまづ文芸」の発行
秋の舞踏会	10.13 市民文化センター	参加団体 6団体（131人） 各洋舞団体のジャズダンスやフラメンコ等の作品発表
美術展	10.18～10.23 プラサヴェルデ	出品総数 107点 洋画・日本画・水彩画・版画の作品展示
演劇祭	10.18～10.19 市民文化センター	参加人数 12人 岩崎直 演出・指導「十一ぴきのネコ」の上演
バレエパフォーマンス	10.20 市民文化センター	参加団体 6団体（150人） 各バレエ団体による作品と合同作品の発表
沼津寄席	10.20 市立図書館	参加人数 11人 講談、落語、物語などの披露
郷土ふれあい太鼓	10.27 市民文化センター	参加団体 5団体（65人） 「郷土ふれあい太鼓」と題した太鼓の演奏
邦楽祭	10.27 市民文化センター	参加団体 12団体（140人） 箏、三味線、謡の披露
現代いけばな展	11.1～11.3 市民文化センター	出品点数 56点 自由な発想による超流派のいけばな展示
クライネムジークコンサート	11.2 市民文化センター	参加人数 10人 プロ・セミプロによるクラシック音楽の演奏
音楽の広場	11.3 市民文化センター	参加団体 12団体（301人） 高校生による吹奏楽の演奏
芸能祭	11.10 市民文化センター	参加団体 3団体（250人） 剣舞、詩吟、詩舞、歌謡吟などの披露
新舞踊祭	11.16 市民文化センター	参加団体 9団体（60人） 各団体による新舞踊の披露
表彰式	11.17 プラサヴェルデ	美術展部門、写真展部門、書道展部門、文芸部門の入賞者の表彰

- 5月に第37回ぬまづ茶会を開催し、茶道文化の普及と本市の都市イメージの向上を目指した。
- 10月に第37回山口源新人賞を1作品に授与した。また受賞者を講師に迎え、版画の普及を目的とし、市内の高校や、一般公募による版画ワークショップを行った。
- 11月24日、国指定史跡興国寺城跡において、ぬまづ伝統文化体験フェスティバル2019を開催し、和太鼓演奏や体験、弓矢模範演武などを行った。
- まちなかコンサート
芸術文化の振興と市中心部のにぎわいづくりを目的として、市街地の会場において音楽コンサートを開催した。

内 容	開 催 日	会 場	参加人数
イタリア・ヴァイオリン 音楽の夜明け	11.7	第二地区センター	168人

7 市史編さん

市の歴史を明らかにする貴重な史・資料を整理・保存した。頒布可能な刊行物は、次のとおりである。

- | | | |
|--------------------|--------|---------|
| ① 市史「史料編 近世1」 | (有償頒布) | 平成5年刊行 |
| ② 市史「史料編 古代・中世」 | (有償頒布) | 平成8年刊行 |
| ③ 市史「史料編 近代1」 | (有償頒布) | 平成9年刊行 |
| ④ 市史「史料編 漁村」 | (有償頒布) | 平成11年刊行 |
| ⑤ 市史「資料編 自然環境」 | (有償頒布) | 平成11年刊行 |
| ⑥ 市史「史料編 近世2」 | (有償頒布) | 平成12年刊行 |
| ⑦ 市史「史料編 近代2」 | (有償頒布) | 平成13年刊行 |
| ⑧ 市史「資料編 考古」 | (有償頒布) | 平成14年刊行 |
| ⑨ 市史「資料編 民俗」 | (有償頒布) | 平成14年刊行 |
| ⑩ 市史「史料編 近世3」 | (有償頒布) | 平成15年刊行 |
| ⑪ 市史「史料編 現代」 | (有償頒布) | 平成16年刊行 |
| ⑫ 市史「通史編 原始・古代・中世」 | (有償頒布) | 平成17年刊行 |
| ⑬ 市史「通史編 近世」 | (有償頒布) | 平成18年刊行 |
| ⑭ 市史「通史編 近代」 | (有償頒布) | 平成19年刊行 |

⑮ 市史「通史別編 漁村」	(有償頒布)	平成19年刊行
⑯ 市史「通史編 現代」	(有償頒布)	平成21年刊行
⑰ 市史「通史別編 民俗」	(有償頒布)	平成21年刊行
⑱ 「戸田村史 通史編」	(有償頒布)	平成28年刊行
⑲ 市史だより 1～25号	(無償頒布)	
⑳ 市史研究 2～19号	(有償頒布)	
㉑ 市史叢書 1～11	(有償頒布)	
㉒ 調査報告書 6～16	(有償頒布)	

8 文 化 財

郷土の文化遺産の保護・継承のため、文化財の調査・整理及び保存に努めたほか、文化財の愛護思想を啓発するため、講師を派遣して「文化財めぐり」を13回開催し、241人の市民が参加した。出前講座は3回開催し、159人の市民が聴講した。また、文化財保護審議会を1回開催し、市の指定文化財の指定に関することなどを審議した。

埋蔵文化財発掘調査関係の主な事業は、次のとおりである。

- 中原遺跡埋蔵文化財発掘調査受託事業
- 鉄道施設移転事業
- 岡宮北土地区画整理事業
- 香陵公園周辺整備事業
- 埋蔵文化財発掘調査補助事業
- 静岡東部拠点土地区画整理事業
- 第二地区センター建設事業
- 埋蔵文化財発掘調査整理事業

また、史跡等保全整備事業として高尾山古墳出土遺物レプリカ作成や大瀬崎ビヤクシン樹林保存活用計画策定に向けた植生調査など、次の事業を行った。

- 長浜城跡保存活用事業
- 興国寺城跡保存整備事業
- 戸田松城邸保存修復事業
- 帯笑園保存活用事業
- 高尾山古墳保存整備事業
- 大瀬崎ビヤクシン樹林保存活用事業

そのほか、移転した文化財センターを拠点とした文化財活用推進事業を行った。

9 社会教育施設

(1) 若山牧水記念館

公益社団法人沼津牧水会を指定管理者として、歌人若山牧水の業績の顕彰と沼津の文学風土を紹介することを目的として、文学資料の保存や調査・研究を行うとともに、講座・講演等を開催し、広く市民の教養・文化の向上に努めた。

ア 事業

(ア) 講座・講演等

- 「初心者のための短歌講座」、「牧水記念館短歌会」

4月～令和2年3月 参加者 合計272人 講師 永久保 英敏

(公益社団法人沼津牧水会理事)

- 短歌大会

10月6日

「短歌大会」応募短歌106首 参加者84人

講師 穂村 弘 (歌誌「かぼん」会員、第23回若山牧水賞受賞者)

- 「中学生短歌コンクール」

募集期間 5月1日～7月31日

表彰式 10月20日 沼津牧水祭・碑前祭にて

応募短歌 19校 1,557首 入選短歌49首

(イ) 調査・研究

牧水顕彰のための調査・研究を行い、関係資料の収集に努めるとともに、館報の作成に活用した。

(ウ) 若山牧水記念館館報の刊行

「沼津市若山牧水記念館」館報(年2回)を刊行し、市民への啓発を行った。

第63号(9月1日)

第64号(令和2年3月1日)

イ 企画展示

- 「書道講座」受講者作品展示(令和2年3月17日～29日)

ウ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	329 ^人	26 ^日	10	274 ^人	26 ^日
5	746	26	11	516	26
6	724	26	12	208	24
7	271	26	2.1	206	24
8	351	27	2.2	275	24
9	555	26	2.3	253	26

入館者数 4,708人
 開館日数 307日
 1日平均入館者数 15.3人

(2) 歴史民俗資料館

郷土の歴史・民俗資料の収集、保管、調査・研究を行い、企画展や講座を開催し、市民文化の向上と発展に努めた。

ア 歴史民俗資料館協議会

館の円滑な運営を図るため、委員6人による協議会を3回開催し、館の運営計画や展示計画、PR方法などについて協議した。

イ 事業

- (ア) 国重要有形民俗文化財の「沼津内浦・静浦及び周辺地域の漁撈用具」(2,539点)の指定報告書解説編の作成を進めた。
- (イ) 調査・研究活動として、民俗、古文書等の収蔵資料の整理を実施した。
- (ウ) 普及活動として、「資料館だより」、「沼津市歴史民俗資料館資料集33」、「沼津市博物館紀要44」(明治史料館と共同)を刊行した。
- (エ) 8月2・3日、体験学習「昔の道具を使ってみよう」を開催した。(参加者：10人)
- (オ) 令和2年1月11日、歴史講座「豊臣大名中村一氏の駿河支配と沼津地域」を開催した。(参加者：142人)

ウ 展示

(ア) 常設展

1階展示室に「奥駿河湾の漁法と漁具」、2階展示室に「生活用具とものづくり」、「沼津の漁業、信仰(漁具)」を展示した。

(イ) 企画展

- 国指定漁具コレクション水産加工用具「沼津のひもの・かつおぶし」を開催した。
(4月1日～5月6日)

- 国指定漁具コレクション養殖用具「そだてる漁業—養殖をめぐる沼津の一世紀—」を開催した。

(令和2年2月8日～3月31日)

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数		
4	2,338 ^人	25 ^日	10	1,255 ^人	24 ^日		
5	4,307	26	11	2,531	25	入館者数	23,632人
6	2,512	25	12	1,437	23	開館日数	294日
7	1,451	25	2.1	1,228	23	1日平均	80.4人
8	1,944	26	2.2	1,755	23	入館者数	
9	1,403	24	2.3	1,471	25		

(3) 明治史料館

江原素六及び沼津兵学校の関係資料を中心に常設展示を行うとともに、地域の歴史資料の調査・収集・保存をし、企画展をはじめ、講座の開設、資料の整理・出版活動を通じて、市民文化の向上と発展に努めた。

ア 明治史料館協議会

館の円滑な運営を図るため、委員10人による協議会を3回開催し、運営及び事業計画などについて協議した。

イ 事業

(ア) 古文書解読入門講座

古文書を初めて読む市民を対象に、当館講座室を会場として、郷土史料をテキストに、くずし字などの解読力を養う入門講座を開設した。講座終了後は、生涯学習のサークルとして自主学習グループの育成に努めた。

(イ) 戦争史跡めぐり

8月10日、小学生とその保護者、中学生を対象とした、「平和を考える戦争史跡めぐり」を実施し、地域の歴史学習の場を提供した。

(ウ) 高校生のための一日学芸員体験講座

8月8日・9日、「学芸員」という仕事を体験することによって、高校生が歴史や博物館などに対する興味を持つとともに進路を決める際の参考になるよう開催した。

(エ) 「戦時中のくらしを体験しよう」

8月7日、戦時中の物資不足の体験を学ぶため、当時の主な食べものであった「すいとん」作りや、戦争体験者の話を聞く小学生歴史教室を開催した。

(オ) 戦争体験を記録する会

毎月1回の会合を開き、戦争の体験を後世に残すために、市民の戦争体験を記録した。

(カ) 出版活動

館報である「明治史料館通信」(年4回)を刊行し、博物館活動への理解向上を図ったほか、歴史民俗資料館と共同で「沼津市博物館紀要44」を刊行し、博物館業務としての資料整理や研究成果の公表を行った。

(キ) そろくまつり

江原素六の功績に対し感謝と理解を深めるため、地元小学校児童による学習発表会や作品展などを開催した。

ウ 展 示

(ア) 常 設 展

3階、4階を常設展示場とし、3階北側は「江原素六」、3階南側は「沼津の歴史」、4階は「沼津兵学校」を展示した。

(イ) 企 画 展

○ 「Discover Numazu アゲイン～市民カメラマンの古里再発見～」

(7月2日～9月1日)

○ 「愛鷹山」

(11月1日～令和2年2月2日)

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	348 ^人	25 ^日	10	596 ^人	20 ^日
5	1,003	26	11	674	25
6	387	19	12	350	24
7	659	25	2.1	499	23
8	1,056	26	2.2	343	20
9	631	24	2.3	157	25

入 館 者 数 6,703人

開 館 日 数 282日

1 日 平 均
入 館 者 数 23.8人

(4) 戸田造船郷土資料博物館

幕末に日本に來航して駿河湾で沈没したロシアの軍艦ディアナ号、その代船として建造されたヘダ号関係の資料、戸田の漁業や廻船業などの郷土資料を展示・収集したほか、開館50周年記念事業を行った。

ア 戸田造船郷土資料博物館協議会

館の運営の円滑化を図るために、委員5人からなる協議会を開催し、館の展示計画や広報活動、資料収集活動のあり方について協議した。

イ 事 業

(ア) 博物館だよりの発行

博物館への関心を高め、博物館の活動について住民に知らせるための博物館だよりを隔月発行し、戸田地区内回覧及び各窓口事務所等に配布した。

(イ) 開館50周年記念事業の実施

- 開館50周年記念企画展「プチャーチンが結んだ絆～日ロ友好の165年～」
(6月28日～令和2年1月31日)
- 開館50周年記念式典
(7月20日)
- 開館50周年記念企画展の図録発行

ウ 展 示

大名びな展(4月1日～5月31日)

戸田から見た富士山と雲写真展(令和2年2月1日～2月29日)

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数		
4	995 ^人	26 ^日	10	330 ^人	23 ^日		
5	1,119	26	11	607	25	入 館 者 数	9,328人
6	577	26	12	526	24	開 館 日 数	305日
7	875	25	2.1	641	25	1 日 平 均	30.6人
8	1,346	29	2.2	776	24	入 館 者 数	
9	829	25	2.3	707	27		

(5) 庄司美術館（モン ミュゼ沼津）

NPO法人沼津文化協会を指定管理者として、寄贈された美術品による常設展や沼津ゆかりの芸術家を中心とした企画展を行い、市民に美術鑑賞の場を提供した。

ア 庄司美術館運営委員会

美術館の適正な運営を図るため、委員9人による運営委員会を1回開催し、運営及び展示計画などについて協議した。

イ 展 示

期 日	1 階 展 示 室	2 階 展 示 室
4.1～4.21	イスマイル・チョウドリ作品展	すずきしょうた展
4.27～5.19	北村康郎日本画展	写真家よたの展覧会
5.25～6.23	赤堀恒司の世界	大野すゑ子油彩画展
7.6～7.28	秋山正美油彩画展	収藏品展
8.3～8.25	外海文武日本画展	中井誠之助写真展
8.31～9.22	村上益男写真展	佐藤泰司写真展
9.28～10.20	収藏品展（生活の中の器展）	
10.26～11.24	収藏品展（生活の中の器展）	
11.30～12.22	金刺春雄写真展	仲本兼智油彩画展
2.1.4～1.26	寄贈作品展（美術館を彩った作家達2020）	
2.2.1～2.23	山口源賞大賞新人賞受賞作品展	
2.2.29～3.22	柏木健二油彩画展	落合清太郎版画展

ウ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数						
4	621 ^人	22 ^日	10	266 ^人	22 ^日	入 館 者 数	5,017人				
5	633	23	11	258	22			開 館 日 数	252日		
6	289	20	12	419	19					1 日 平 均 入 館 者 数	19.9人
7	358	20	2.1	265	20						
8	594	21	2.2	337	20						
9	379	21	2.3	598	22						

(6) 芹沢光治良記念館

平成21年4月1日に一般財団法人井上靖文学館から資料及び建物の寄附を受け、同年10月1日に芹沢光治良記念館として開館した。本市生まれの作家芹沢光治良の関係資料を整理・収集・保存し、企画展示を行うとともに、市民ギャラリーとして沼津の文化に関する企画展示を一般公募するなど、市民文化の向上と発展に努めた。

ア 芹沢光治良記念館懇話会

館の円滑な運営を図るため、委員4人による懇話会を2回開催し、運営方法及び事業計画などについて参考意見を聴取した。

イ 事 業

(ア) 資料整理・保存

芹沢光治良関連資料のデータベース化と適正保存を進めるために、資料目録の点検、補填など、資料の整理及び保存の処理を行った。

(イ) 各種広報活動

当館周知のためのポスター及びチラシ等を作成し、市内小中学校等の教育機関、各自治会及び主要文化施設に配布した。また各イベント会場へ出向き、同様に配布した。

(ウ) 教育普及

企画展展示説明会や出前講座等を実施した。

事業名	内 容	期 日	備 考
出 前 講 座	芹沢光治良出前上映会	8.26	藤井原サロン 参加者15人
展 示 説 明 会	企画展光治良と川端康成展展示説明会	7.31 8.24	同日中に全3回実施 参加者計39人
講 演 会	第10回芹沢光治良文学講演会 「芹沢光治良と川端康成—それぞれの文学について—」	11.2	講師：勝呂 奏氏 参加者110人

ウ 展 示

企 画 展

- 光治良と中国展（4月1日～5月31日）
- 光治良と川端康成展（第1回）（6月15日～11月30日）
- 光治良と川端康成展（第2回）（12月15日～令和2年3月31日）

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	214 ^人	26 ^日	10	657 ^人	25 ^日
5	1,072	27	11	751	26
6	167	14	12	422	12
7	247	26	2.1	473	24
8	1,047	27	2.2	967	24
9	1,132	25	2.3	1,383	26

入館者数 8,532人
 開館日数 282日
 1日平均入館者数 30.3人

10 社会体育

生涯スポーツの振興のため、各種スポーツ大会等の開催のほか、小・中学校の体育施設の開放を推進するとともに、NPO法人沼津市体育協会、沼津市スポーツ推進委員連絡協議会、同各地区体育委員会、同スポーツ少年団の活動助成に努めた。

また、沼津市スポーツ推進基本計画（平成26年度～令和5年度）の後期推進計画（令和元年度～5年度）に基づきスポーツ振興にかかる事業を行った。

(1) スポーツ大会等開催事業

名 称	実施時期	概 要
第60回沼津市 町別ソフトボール大会	4.7・14・21	30歳以上の男性及び高校生以下を除く女性がソフトボールを楽しむ中で体力づくりと健康の増進を図り、試合を通して相互の親睦を深めた。(参加56チーム)
第53回沼津市 町別バレーボール大会	6.2・9	20歳以上の既婚女性又は30歳以上の女性がバレーボールを楽しむ中で体力づくりと健康の増進を図り、試合を通して相互の親睦を深めた。(参加34チーム)
第73回 沼津市スポーツ祭	通 年	各種スポーツの普及と底辺拡大を図るため、体育協会の協力のもと、約20,000人が参加し、市主催の本市最大のスポーツ大会を実施した。 水泳競技ほか30種目
2019 ぬまづ健康スポーツ祭	9.29	年齢問わず、親睦を深め、気軽にスポーツに親しみ健康で楽しい生活が送れるようにすることを目的に実施した。(参加者約1,600人)
第64回 千本浜ファミリー マラソン大会	11.10	市民の健康増進と体力づくりを目的に、千本浜防潮堤を利用して、誰でも気軽に参加できるマラソン大会を実施した。(参加者661人)
第66回 沼津市駅伝競走大会	2.1.19	職場スポーツの普及と青少年の体力増進を図ることを目的として愛鷹広域公園内の周回コースで実施した。(参加82チーム)

(2) 支えるスポーツ推進事業

本市のスポーツ振興の基本理念の一つである「ささえるスポーツ」の実現を目的とし、年齢・性別を問わず、誰もがスポーツに参画できる環境の整備のため、各種研修会等を行った。

(3) スポーツリーダーバンク事業

沼津市スポーツリーダーバンクに登録されている指導者の活用方法等について検討を行った。

○紹介可能種目 テニス、卓球、バレーボール、柔道等全28種目

○登録指導者数 24人

(4) 魅せるスポーツ推進事業

本市のスポーツ振興の基本理念の一つである「みるスポーツ」を推進するため、大学との連携を図るほか、本市にゆかりのあるトップアスリートによる教室の開催や県市町対抗駅伝競走大会の沼津市チームへの支援を行った。

(5) 学校体育施設利用推進事業

地域スポーツの振興を図るため、小・中学校の体育施設を地域住民のスポーツの場として開放し、市民の健康の維持・増進と体力づくりを図った。

学校体育施設利用状況

		運動場（夜間）	運動場（昼間）	体育館（夜間）	体育館（昼間）
小学校	日数	967 日	2,650	4,206	3,243
	人数	22,782 人	88,789	75,196	78,792
中学校	日数	986 日	186	4,013	164
	人数	12,186 人	5,540	77,210	4,286
計	日数	1,953 日	2,836	8,219	3,407
	人数	34,968 人	94,329	152,406	83,078

(6) 屋外運動場夜間照明施設整備事業

地域スポーツの振興を図るため、小・中学校等に設置してある夜間照明施設の点検及び修繕を行った。

(7) スポーツ広場整備事業

地域住民の健康・体力づくりのため、自治会が借り上げた遊休地等の土地にグラウンド砂の補充を行った。

(8) 地域体力づくり教室運営事業

身近な施設でたくさんの仲間とふれあいながら、健康・体力づくりができるように各種の教室を地区センターなどを会場に開催した。

教室名		会場	定員 (各期)	期・回数	参加人員		対象者
					男	女	
女性体操教室	Aコース	原地区センター	45 ^人	2期延べ21回	— ^人	779 ^人	18歳以上の女性
	Bコース		45	2期延べ21回	—	684	
ふれ愛体操教室	水曜日コース	原地区センター	80	3期延べ28回		1,029	60歳以上の人
	木曜日コース		80	3期延べ29回	15	1,105	
ふれ愛体操教室	Aコース	大平地区センター	30	3期延べ28回		506	60歳以上の人
	Bコース		30	3期延べ28回		480	
男性健康づくり教室			30	3期延べ29回	446	—	18歳以上の男性
ふれ愛体操教室		静浦地区センター	40	3期延べ29回		609	60歳以上の人
ふれ愛体操教室		浮島地区センター	40	3期延べ26回		443	60歳以上の人
ふれ愛体操教室		戸田B&G海洋センター	50	3期延べ26回		392	60歳以上の人
ふれ愛体操教室		愛鷹地区センター	40	3期延べ29回	7	622	60歳以上の人
ふれ愛体操教室	水曜日コース	第三地区センター	45	3期延べ28回		722	60歳以上の人
	木曜日コース		45	3期延べ29回	24	871	
男性健康づくり教室		片浜地区センター	40	3期延べ29回	647	—	18歳以上の男性
からだづくり教室		第五地区センター	40	3期延べ29回		672	18歳以上～59歳の人
ふれ愛体操教室			40	3期延べ29回	26	688	60歳以上の人
たのしいヨガ教室			35	3期延べ29回	43	588	18歳以上の人
からだづくり教室		門池地区センター	40	3期延べ28回		454	18歳以上～59歳の人
ふれ愛体操教室	Aコース		40	3期延べ29回		691	60歳以上の人
	Bコース	40	3期延べ29回	137	569		
ふれ愛体操教室	水曜日コース	今沢地区センター	40	3期延べ28回		505	60歳以上の人
	木曜日コース		40	3期延べ29回	8	713	
ふれ愛体操教室		大岡地区センター	40	3期延べ29回		593	60歳以上の人
からだとのえ運動教室		内浦地区センター	40	3期延べ29回	19	546	40歳以上の人
たのしいヨガ教室		第二地区センター	30	3期延べ28回	21	459	18歳以上の人
小計					1,393	14,720	
合計					16,113		

第5節 自然体験施設

1 ゆめとびら舟山

自然体験施設として、青少年の健全育成を図るための集団宿泊生活や野外活動など年間利用者数は27団体延べ2,037人であった。

(1) ゆめとびら舟山運営審議会

沼津市校長会、沼津市スポーツ少年団、戸田観光協会代表などの7人により構成され、2回の会議を開催し、施設の利用促進、今後の活用の方策などについて審議した。

(2) 利用状況

ア 宿泊棟

(ア) 月別

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2.1	2.2	2.3	計
団体数	1	2	2	5	3	2	3	5	3		1		27 ^{団体}
実人員	46	94	40	219	115	98	127	65	14		23		841 ^人
延べ人数	137	249	75	540	271	196	315	125	14		115		2,037 ^人
開所日数	26	27	26	26	27	25	27	26	24	24	25	27	310 ^日
利用率	5.3	9.2	2.9	20.8	10.0	7.8	11.7	4.8	0.6	0.0	4.6	0.0	6.6 [%]

$$\text{※利用率} = \frac{\text{延べ利用者数}}{\text{宿泊定員 (100人)} \times \text{開所日数}} \times 100$$

(イ) 団体別

団体 区分	幼・保	小学校	中学校	高等学校 各種学校等	スポーツ 少年団等	その他	計
団体数			2		11	14	27 ^{団体}
実人員			125		429	287	841 ^人
延べ人数			375		1,120	542	2,037 ^人

イ グラウンド等

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2.1	2.2	2.3	計
団体数	5	7	4	11	10	2	8	4	3		9		63 ^{団体}

第6節 体 育 施 設

1 市民体育館

(1) 市民体育館運営審議会

市民体育館利用者代表等からの委員（定員15人以内）により構成され、1回の会議を開催し、市民体育館の運営について審議した。

(2) 開催事業

ア 体力づくり教室

教室名		定員 (各期)	期・回数	参加人員		対象者
				男	女	
親子体力 づくり教室	父子ふれあい(30組)	60	3期延べ29回	635	284	4・5・6歳児と保護者
	3歳コース(120組)	240	3期延べ29回	404	1,314	3歳児と保護者
	4・5・6歳コース(60組)	120	3期延べ28回	422	1,090	4・5・6歳児と保護者
小学生体育教室		40	3期延べ29回	298	239	小学1・2年生の運動が苦手な児童
男性スポーツ教室		30	3期延べ29回	300	—	18歳以上の男性
女性体操 教室	月曜日コース	50	3期延べ27回	—	954	18歳以上の女性
	火曜日コース	150	3期延べ28回	—	1,715	
トレーニング教室		10	3期延べ28回	—	94	18歳以上の女性
女性フィットネス教室		40	3期延べ29回	—	699	18歳以上の女性
ボディバランス 教室	月曜日コース	40	3期延べ27回	59	496	18歳以上の 人
	水曜日コース	40	3期延べ29回	—	751	
コンディショニング教室		25	3期延べ28回	46	396	18歳以上の 人
ロコモ 予防教室	木曜日コース	40	3期延べ29回	109	942	運動を止められていない 50歳以上の 人
	金曜日コース	40	3期延べ29回	72	802	
脚力アップ教室		40	3期延べ29回	205	781	60歳以上の 人
健康体操教室		100	3期延べ28回	103	983	60歳以上の 人
小計				2,653	11,540	
合計				14,193		

イ 短期講座

運動体験講座

講座名	定員	開催日	参加人員		対象者
			男	女	
バレエストレッチ	30	2.2.6	人	6人	市内在住か通勤する 18歳以上の人 (高校生は除く)
コンディショニング	30	2.2.7	1	9	
ウェーブストレッチリング	30	2.2.4	1	13	
ストレッチポール	30	2.2.5	2	19	
リンパリフレッシュエクササイズ	30	2.2.13	1	17	
計			5	64	

ウ トレーニングの指導

利用者講習会

運動不足の解消や、健康増進などを図りたい人を対象に安全で効果的なトレーニングが進められるように講習会を行った。

利用者講習会受講者	65回 736人	トレーニング室利用者	公開日数324日 46,345人
男性	506	男性	36,800
女性	230	女性	9,545

エ 体力測定・診断

これから運動を始めようとする人や、体力に不安を感じる人を対象に、体力レベルや、身体構成を知るための体力測定を行い、その結果について診断し、今後の体力・健康づくりに関する指導を行った。

体力測定・診断受講者	27回 42人
男性	18
女性	24

(3) 利用状況

ア 年度別利用状況

(単位 人)

年度	区分	個人利用者		団体利用者		体力づくり 教室等利用者		体協スポーツ 教室利用者		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
元		54,292	19,611	41,215	45,941	3,182	11,858	2,380	5,872	101,069	83,282
計		73,903		87,156		15,040		8,252		184,351	
30		60,479	21,859	42,698	51,039	2,971	12,904	2,700	5,933	108,848	91,735
計		82,338		93,737		15,875		8,633		200,583	

イ 目的・種目別利用状況

区 分	目 的 ・ 種 目	利用回数 (コマ数)	利用者数
個 人 利 用	卓 球	— 回	24,173 人
	トレーニング	—	46,345
	弓 道	—	3,283
	そ の 他 (リズム体操・ダンス等)	—	102
	小 計	—	73,903
団 体 利 用	バレーボール	182	3,880
	バドミントン	716	13,461
	バスケットボール	184	4,132
	テ ニ ス (硬式・ソフト)	272	2,589
	卓 球	217	11,142
	フットサル	272	5,322
	剣道・居合道・柔道	269	6,607
	合気道・空手・太極拳	754	16,530
	そ の 他 (リズム体操・ダンス等)	1,093	20,597
	会 議 室	252	2,896
	小 計	4,211	87,156
体 力 づ くり 教 室 等 (教育委員会主催事業)	体力づくり教室 (16教室)	455	14,193
	短期講座 (5 講座)	5	69
	トレーニング指導 (利用者講習)	65	736
	体力測定・診断	27	42
	小 計	552	15,040
ス ポ ー ツ 教 室 (体育協会主催事業)	スポーツ教室 (14教室)	456	8,252
合 計			184,351

2 屋内温水プール

(1) 開催事業

教室名		定員 (各期)	期・回数	参加人員		対象者・摘要	
				男	女		
体 力 づ く り 教 室	親子水泳教室 (20組)	40 ^人	3期延べ26回	67 ^人	261 ^人	3歳児と保護者	
	幼児水泳教室	30	3期延べ27回	447	245	4・5・6歳児	
	小学生水泳教室	30	3期延べ26回	312	331	クロールで25m 泳げない小学生	
	アクアウォー キング教室	月曜日コース	60	3期延べ23回	—	935	18歳以上の女性
		火曜日コース	35	3期延べ26回	—	623	
	アクアビクス教室	60	3期延べ23回	—	1,044		
健康水泳教室	60	3期延べ23回	100	568	50歳以上の人		
スポーツ教室 (3教室)		年間66回 定員3,000人		1,046	1,528	体育協会主催	
小計				1,972	5,535		
合計				7,507			

(2) 年度別利用状況

年度	一般	構成比	高校生以下	構成比	計	公開日数	1日平均 利用者数
元	34,405 ^人	73.8%	12,203 ^人	26.2%	46,608 ^人	275 ^日	169 ^人
30	36,026	72.6	13,566	27.4	49,592	276	180

3 勤労者体育センター

(1) 開催事業

体力づくり教室

教室名		定員 (各期)	期・回数	参加人員		対象者
				男	女	
女性体操教室	水曜日コース	120 ^人	3期延べ29回	— ^人	1,017 ^人	18歳以上の女性
	木曜日コース	120	3期延べ29回	—	934	
健康体操教室		120	3期延べ29回	144	937	60歳以上の人
小計				144	2,888	
合計				3,032		

(2) 利用状況

ア 年度別利用状況

(単位 人)

区分 年度	個人利用者		団体利用者		体力づくり教室 利用者		スポーツ教室 利用者		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
元	3,490	2,174	11,875	10,199	144	2,888	161	142	15,670	15,403
計	5,664		22,074		3,032		303		31,073	
30	3,896	2,451	12,162	11,432	130	3,239	170	184	16,358	17,306
計	6,347		23,594		3,369		354		33,664	

イ 目的・種目別利用状況

区 分	目 的 ・ 種 目	利用回数 (コマ数)	利用者数
個 人 利 用	卓 球	— 回	3,817 人
	トレーニング	—	1,800
	そ の 他	—	47
	小 計	—	5,664
団 体 利 用	バレーボール	80	1,499
	バドミントン	358	3,694
	バスケットボール	376	6,813
	体 操	57	1,135
	ソフトバレー	29	236
	卓 球	10	505
	フェンシング	83	1,257
	バウンドテニス	95	615
	ダ ン ス	13	174
	太 極 拳	22	405
	柔 道	30	1,532
	剣 道	36	757
	そ の 他	156	3,452
小 計	1,345	22,074	
体カづくり教室	体カづくり教室 (3教室)	87	3,032
ス ポ ー ツ 教 室	スポーツ教室 (1教室)	27	303
合 計			31,073

4 香陵武道場

(1) 公開教室

区 分	回 数	参加人員		摘 要
		男	女	
ス ポ ー ツ 教 室 (4教室)	3期延べ167回	人 502	人 1,406	体育協会主催
計		1,908		

(2) 種目・年度別利用状況

(単位 人)

練習場 種目 年度	剣道場・柔道場									弓道場	計
	剣道	空手	なぎなた	居合道	体操・ダンス	柔道	太極拳	合気道	その他	弓道	
元	3,461	1,071	658	1,137	3,291	7,183	1,948	1,120	1,171	4,934	25,974
30	3,742	1,671	682	1,043	2,904	8,195	2,195	461	1,760	5,024	27,677

5 戸田B&G海洋センター

戸田地区におけるスポーツ・レクリエーションの拠点として、また、地域に密着した親しまれる施設として利用に供した。

(1) 開催事業

教室名	定員 (各期)	期・回数	参加人員		対象者		
			男	女			
幼児水泳教室	20 ^人	1期15回	65 ^人	40 ^人	年中～小学1年生		
小学生水泳教室	Aコース	1期10回	69	104	小学生		
	Bコース	1期10回	40	55			
プール 夏休み短期水泳教室	前期	Aクラス	30	1期5回	66	66	年長～小学生
		Bクラス	30	1期5回	79	57	
	中期	Aクラス	30	1期5回	59	70	
		Bクラス	30	1期5回	57	68	
	後期	Aクラス	30	1期5回	61	62	
		Bクラス	30	1期5回	38	66	
アクアウォーキング教室	30	1期7回		53	18歳以上の人		
計			534	641			

(2) 利用状況

ア 年度別利用状況

(単位 人)

区分 年度	プー ル				体 育 室		計
	個人利用者		体力づくり教室		団体利用者		
	男	女	男	女	男	女	
元	883	1,499	534	641	3,491	3,384	10,432
	2,382		1,175		6,875		
30	714	1,559	564	938	3,719	4,451	11,945
	2,273		1,502		8,170		

イ 目的・種目別利用状況

区 分	目 的 ・ 種 目	利用回数	利用者数
個 人 利 用	プール	— 回	2,382 人
団 体 利 用	バレーボール	126	1,534
	バドミントン	265	265
	バスケットボール	107	968
	卓 球	2	36
	ミニバス	60	1,218
	柔 道	106	1,673
	空 手	3	17
	そ の 他 (ダンス・カローリング等)	54	1,124
	会 議 室	1	40
	小 計	724	6,875
体力づくり教室 (教育委員会主催事業)	体力づくり教室 (10教室)	72	1,175
合 計			10,432

6 屋外施設の年度別利用状況

区分 年度	市営野球場		大岡市民運動場		西部市民運動場		中瀬市民運動場	
元	154 ^回	10,424 ^人	610 ^回	26,886 ^人	399 ^回	10,008 ^人	511 ^回	7,127 ^人
30	155	11,785	619	32,471	436	12,498	529	8,002

区分 年度	愛鷹運動公園テニスコート (12面)	大岡公園テニスコート (4面)	戸田テニスコート (2面)
元	64,503 ^人	28,416 ^人	545 ^人
30	65,782	28,919	513

第7節 図 書 館

1 市立図書館協議会

図書館法第14条に基づき、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関として設置している。本年度は協議会を2回、視察を1回行った。

委員9人（内2人は公募委員）

2 資料整備

利用者が求める様々な情報に対応するため、一般書、児童書、参考調査図書及び視聴覚資料を整備した。

(1) 図書資料

ア 区 分 別

区 分		購 入 数	金 額	蔵 書 数
本 館	一般	8,222 ^冊	22,853,355 ^円	386,936 ^冊
	児童	2,108	3,685,060	75,269
戸 田	一般	399	612,471	24,565
	児童	300	561,274	12,215
自 動 車 文 庫	一般	337	492,961	3,716
	児童	63	84,435	1,769
地 区 セ ン タ ー	一般	942	1,402,099	29,542
	児童	619	605,687	39,685
計	一般	9,900	25,360,886	444,759
	児童	3,090	4,936,456	128,938

イ 分 類 別

(単位 冊)

分 類	購 入 数		蔵 書 数	
	一 般	児 童	一 般	児 童
総 記	385	44	23,655	1,186
哲 学	369	16	18,689	763
歴 史・地 理	1,013	335	55,904	4,809
社 会 科 学	1,482	208	78,032	5,992
自 然 科 学	880	200	28,353	10,940
工 学	1,137	81	36,375	4,054
産 業	426	42	17,024	2,628
芸 術	1,027	152	40,402	4,909
語 学	130	40	7,765	1,236
文 学	2,987	902	133,899	36,595
洋 書	64		3,493	
絵 本		1,005		53,065
紙 芝 居		65		2,761
点 字			1,168	
計	9,900	3,090	444,759	128,938

(2) 視聴覚資料

ア 区 分 別

区 分	購 入 数	金 額	所 蔵 数
本 館	295 ^点	1,724,832 ^円	42,095 ^点
戸 田	11	118,825	1,097
計	306	1,843,657	43,192

イ 分 類 別

(単位 点)

分 類	購 入 数	所 蔵 数
ビ デ オ		11,335
D V D	165	5,875
L D		1,062
C D	141	23,125
カ セ ッ ト		1,775
16ミリフィルム		20
計	306	43,192

3 館内・館外業務

本館及び戸田図書館では、一般書、児童書、視聴覚資料、郷土資料、新聞、雑誌等の閲覧・貸出しなどを行うとともに、予約・リクエストサービス、レファレンスサービス、コピーサービスなどを行った。また、市街地周辺部の利用者に対して自動車文庫や地区センターの図書室において貸出しを行った。

(1) 入 館 者 数

区 分	年 度	開館日数	入 館 者 数		
			年 間	1月平均	1日平均
本 館	元	301 ^日	347,551 ^人	28,963 ^人	1,155 ^人
	30	297	366,797	30,566	1,235
戸 田	元	280	6,899	575	25
	30	284	9,221	768	32

(2) 貸出利用者数、貸出数

(視聴覚資料は館内ブース利用も含む)

区 分	年 度	利用者数	貸 出 数		
			図書資料	視聴覚資料	計
本 館	元	250,705 ^人	675,481 ^冊	95,149 ^点	770,630 ^{冊・点}
	30	257,029	691,635	95,899	787,534
戸 田	元	2,577	5,697	562	6,259
	30	3,004	6,973	457	7,430
自動車文庫	元	3,382	14,323	—	14,323
	30	3,251	14,202	—	14,202
地区センター	元	12,175	46,281	—	46,281
	30	11,045	43,177	—	43,177
計	元	268,839	741,782	95,711	837,493
	30	274,329	755,987	96,356	852,343

(3) 自動車文庫

市内45か所のステーション及び小学校2校を巡回して、市街地周辺部の利用者及び小学生への図書貸出しを行った。

年 度	出勤日数	貸 出 数		
		年 間	1月平均	1日平均
元	179 ^日	14,323 ^冊	1,194 ^冊	80 ^冊
30	184	14,202	1,184	77

(4) 郵送・宅配・団体貸出

図書館に来館することが困難な利用者（身体障害者等）を対象に郵送や宅配貸出しを行い、登録された利用者（142人）の便宜を図った。また、沼津特別支援学校等に図書の団体貸出しを行った。

年 度	郵 送		宅 配		団 体	
	利用件数	貸 出 数	利用件数	貸 出 数	利用者数	貸 出 数
元	14 ^件	20 ^冊	171 ^件	769 ^冊	29 ^{団体}	9,858 ^冊
30	25	30	278	1,138	32	9,061

(5) レファレンスサービス

職員が利用者の求める資料の検索や情報の収集を支援する、レファレンスサービスを行った。

(単位 件)

年 度	窓 口	電 話	文 書	E-mail	計
元	4,705	402		4	5,111
30	7,506	141	1	5	7,653

(6) 相 互 貸 借

各図書館の間で相互に図書資料の貸借を行い、利用者の要求に応じている。資料の貸借は、県立中央図書館の協力車に依頼、郵送、宅配便の方法から選択して行った。

ア 貸 出

年 度	県内図書館		県外図書館		計	
	件 数	貸出数	件 数	貸出数	件 数	貸出数
元	834 ^件	1,025 ^冊	7 ^件	9 ^冊	841 ^件	1,034 ^冊
30	783	974	7	7	790	981

イ 借 受

年 度	県内図書館		県外図書館		計	
	件 数	借受数	件 数	借受数	件 数	借受数
元	970 ^件	1,477 ^冊	65 ^件	75 ^冊	1,035 ^件	1,552 ^冊
30	993	1,230	27	31	1,020	1,261

(7) 静岡県東部地域図書館間の相互利用

県東部地域の公共図書館相互利用協定により、各市町の利用者は、直接、協定先の図書館から図書資料の貸出しを受けることができる。

協定先は、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、下田市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、南伊豆町、松崎町、函南町、清水町、長泉町及び小山町の10市6町で、令和2年3月31日現在の登録者数は、20,279人である。

4 自主事業

(1) 図書館講座等

図書館活動の一環として、図書館資料の提供と関連をもたせ、資料の活用を促進し、市民の読書活動推進の一助となるよう講座を開催した。

ア 文芸講座

回	月日	内 容	講 師
1	6.7	「世界の始まりと神々の誕生」	静岡大学教授 上利 博規
2	6.14	「古墳時代の国々と王の物語」	
3	6.21	「日本」の成立と共に物語は歴史となる	

参加者 1日平均 155人 会場 視聴覚ホール 開催時間 18:00~20:00

イ 子どもの本を知る講座

回	月日	内 容	講 師
1	7.7	「絵本との出会い・絵本を贈る」 ～心に残る出会いをした事がありますか?～」	静岡県子ども読書アドバイザー 小島みゆき
2	7.14	「おはなしをくらべて楽しむ」	静岡県子ども読書アドバイザー 甲村 浩恵
3	7.21	「おはなしを耳から楽しむ」	静岡県子ども読書アドバイザー 増村 生羽

参加者 1日平均 26人 会場 第1・2講座室 開催時間 13:30~15:00

ウ 夏休み子ども講座

月日	内 容	講 師
7.24	「宇宙開発の今・未来」	宇宙航空研究開発機構 (JAXA)広報部 特任担当役 宮里 光憲

参加者 154人 会場 視聴覚ホール 開催時間 13:30~15:00

エ 読書週間講演会

月 日	内 容	講 師
11.10	「歴史小説を読む楽しみ」	作家 伊東 潤

参加者 159人 会場 視聴覚ホール 開催時間 13:30~15:00

オ 読みメン講座

月 日	内 容	講 師
2.1.26	「読みメン講座 ～男らしい!おはなし会&俺のこだわり絵本講座～」	絵本作家、元保育士 坂口 慶

参加者 57人 会場 第1・2講座室 開催時間 13:30~15:00

(2) 展 示 事 業

期 間	名 称	内 容
4.10~5.26	「沼津ゆかりの外交官 市河彦太郎と市河文庫展」	芹沢光治良と同時期を過ごした沼津市出身の外交官 市河彦太郎が、外交官時代に赴任先の国々で入手した貴重な洋書群を氏の関連資料とともに展示
7.11~8.18	夏休み企画展 「おてがみくるかな ～本・絵本の中のお手紙～」	手紙が出てくる本・絵本の展示や「ぐりとぐら」などの人気絵本の主人公からのお手紙を展示
10.11~11.17	読書週間企画展 「読みたくなる歴史小説」	歴史小説を時代ごと展示したほか、講演会講師である伊東潤氏の作品や沼津を舞台にした歴史小説を関係する史跡とともに展示
2.2.14~ 3.22	富士山の日写真展 「日本の心 富士山写真展」	富士山を題材に撮影活動をしている沼津市在住の5人の写真家から提供を受けた富士山の写真19点を展示
2.3.25~ 3.31	「東海道沼津宿と清水本陣」	本年度、沼津市は近世沼津宿の本陣清水家が所蔵していた古文書など8点の資料を購入した。それらの古文書とあわせて沼津宿等の関連資料を展示

(3) その他事業

ア 「沼津市子ども読書活動推進計画」関連事業

(ア) 講演会「おもしろいよ！科学の本 ～あそび・本・自然をつなげて～」

開催日 4月28日

講師 静岡自然を学ぶ会代表 池上 理恵

参加者 79人

(イ) 夏休みわくわく図書館

人形劇や読み聞かせ、身近な材料を使った工作など、本に関連したさまざまな催しを開催した。

開催日 8月1日 参加者 181人

イ 夏休み図書館子ども探検隊

4年生以上の小学生を対象に、図書館の仕事を体験することによって、図書館のしくみや本の調べ方などを学び、将来の利用者を育てることを目的として開催した。

開催日 本館 7月24・30・31日、8月6・7・8・20・21日

戸田図書館 7月24・25・27・31日

参加者 本館 49人、戸田図書館 8人

ウ 上映会

視聴覚資料の有効利用を図る観点から、毎週火曜日に名作映画を中心に上映会を開催した。戸田図書館では夏季に児童向けアニメの上映会を開催した。

本館 上映回数 45回 参加者 1回平均 58人

戸田図書館 上映回数 1回 参加者 1回平均 8人

エ ビブリオバトル小中学生大会 in 沼津

小中学生たちに、本と人との出会いを楽しむ機会を提供するため、小中学生たちによる新しい形の書評合戦を開催した。

開催日 12月15日

参加者 発表者 41人、観戦者 延べ223人

オ おはなしフェスティバル

読み聞かせボランティアの協力を得て、幼児・小学生を対象とした絵本の読み聞かせや親子の工作の会を開催した。

開催日 12月7日 参加者 142人

5 図書館情報ネットワーク事業

本館と戸田図書館及び市内16か所の地区センターをコンピュータ回線でネットワーク化することで、図書館の分館的な機能を整えた。また、パソコンや携帯電話から図書館資料の検索や予約が可能な図書館ホームページ、Facebook及びTwitterによる情報提供を行うことで、利用者の利便向上と図書館資料の利用促進を図った。

ホームページアクセス件数	345,542件
オンライン予約件数	25,742件

第8節 市民文化センター

1 市民文化センター

公益財団法人沼津市振興公社を指定管理者として、文化芸術の鑑賞・交流の場として利用者の立場に立った利用しやすい施設となるように努めた。

(1) 市民文化センター運営審議会

市民文化センターの円滑な運営を図るため、委員7人による審議会を2回開催し、施設の利用促進などについて審議した。

(2) 利用状況

区 分	可 能		使 用					利用人数
	日 数	回 数	日 数	率	件 数	回 数	率	
大 ホ ー ル	316 ^日	948 ^回	178 ^日	56.3 [%]	191 ^件	429 ^回	45.3 [%]	88,785 ^人
小 ホ ー ル	311	933	216	69.5	248	513	55.0	51,008
ホ ー ル 計	627	1,881	394	62.8	439	942	50.1	139,793
大 会 議 室	337	1,011	190	56.4	211	364	36.0	19,988
第 1 練 習 室	338	1,014	94	27.8	95	177	17.5	12,312
第 2 練 習 室	338	1,014	115	34.0	126	225	22.2	13,311
第 3 練 習 室	336	1,008	138	41.1	150	238	23.6	6,234
第 1 会 議 室	338	1,014	141	41.7	150	290	28.6	2,910
第 2 会 議 室	338	1,014	115	34.0	127	212	20.9	2,725
第 3 会 議 室	338	1,014	173	51.2	195	300	29.6	3,924
第 4 会 議 室	338	1,014	225	66.6	258	362	35.7	11,894
第 5 会 議 室	338	1,014	227	67.2	273	359	35.4	11,491
第 6 会 議 室	338	1,014	131	38.8	133	216	21.3	1,760
第 7 会 議 室	338	1,014	32	9.5	32	73	7.2	999
特 別 会 議 室	338	1,014	28	8.3	28	64	6.3	120
会 議 室 計	4,053	12,159	1,609	39.7	1,778	2,880	23.7	87,668
1リハーサル室	336	1,008	246	73.2	301	432	42.9	7,507
2リハーサル室	338	1,014	274	81.1	399	521	51.4	6,876
リハーサル室計	674	2,022	520	77.2	700	953	47.1	14,383
展 示 室	338	338	62	18.3	62	62	18.3	12,720
計	5,692	16,400	2,585	45.4	2,979	4,837	29.5	254,564